京都文教大生による宇治商工会議所会員企業・団体紹介〔第 29 回〕
～社会人0年生の私たちが見つけた企業と地域の魅力～

2025 年 2

学生広報チーム × ナカガワ胡粉（ごふん）絵具株式会社

本物の色に対する飽くなき探求心、求め続けられる伝統文化

現役の大学生として大学の魅力を発信し、地域の課題解決にも取り組む「学生広報チーム」が、胡粉や岩絵具など日本画材の製造メーカーである「ナカガワ胡粉絵具株式会社」の中川晴雄代表取締役を取材しました。

【原材料と製造工程へのこだわりが生み出す「本物の色」】

部屋に入ると、壁一面を覆うカラフルな瓶の美しさに目を奪われました。カラフルな瓶の中身は、様々な色の岩絵具でした。「青色」だけでも薄い水色から濃紺まで50色近くあります。岩絵具は粒子が小さい程、色が淡く白っぽくなり、最も微粒子のものは「白（びゃく）」と呼ばれます。グラデーション状に並べられた瓶を見ただけで、色の濃淡を粒子の大小で表現する技術の高さが窺えました。また、瓶の中の岩絵具が減ると、同じ色の絵具を作り足していきますが、新しいものとそうでないものとの間に境界線は見えません。不思議なほど綺麗に混ざるのです。細かな色の調整と同じ品質、同じ色を作り続けていくという技術と知恵が、世代を超え受け継がれている姿勢に感銘を受けました。

↑ 岩絵具が並ぶ棚

【色彩豊かな日本画の世界に身をゆだねることで癒される心】

中川代表取締役は「デジタルに囲まれた現代を生き抜くためには、時にアナログの世界に身をゆだね、自分と向き合い、心を落ち着かせる時間を持つことが大切です」とおっしゃっています。ご自身のお考えを社会で実践するため、心を落ち着かせるための時間を過ごすことができる「木犀（もくせい）塾」という日本画教室を運営しておられます。塾の建物の前に金木犀と銀木犀の木が2本植えてあったことから「木犀塾」とお洒落な名前がつけられたこの場所は近所の方だけでなく、県外や海外から、そして子供から大人まで幅広い地域や年代の方がその世界にふれられています。この事実から伝統文化が求め続けられていることを感じ、同じ地域で生活するものとして喜びと感動を覚えました。

↑ 工場の見学

【社員全員が生き生きと働く秘訣は「誠の心」にあり】

社内を見学させて頂いた際、何名かの従業員さんとお会いしましたが、お仕事中にお邪魔しているのに、皆さんが笑顔で挨拶してくださり、緊張を和らげてくださいました。職場を笑顔溢れる素晴らしい環境にされている秘訣を中川代表取締役に伺いましたところ、「絵具はお客様が絵皿や手に取り間近に見ていただく商品です。そのため作り手も、細かなチェックを怠らず、100％だと思えるものを世の中にだしていくことが大切だと考えています」とお教え下さいました。取材のために用意していただいた部屋には大きく“誠”と書かれた文字が飾ってあり、誠の心を忘れないという強い思いを感じました。

岩絵具についてお話しされる中川代表取締役→

【今回の取材先】

ナカガワ胡粉絵具株式会社

1897年に創業し、長い歴史を持つナカガワ胡粉絵具株式会社は、京都府宇治市に拠点を置き、伝統的な技法を用いた高品質な絵具を提供しています。特に、天然の鉱物を砕いて作る岩絵具や、貝殻を原料とした胡粉などが特徴です。近年は絵画教室の運営も開始するなど、絵具と関係の深い日本画の発展にも寄与しています。

【今回の取材担当】

学生広報チーム

京都文教大学入試広報課直属の学生団体。高校生などに向けて京都文教大学の魅力を全力で発信する団体。地域の課題を解決する活動にも、企業や行政と共に、精力的に取り組んでいる。総勢33人で活動中。

今回取材、記事を担当した学生と中川代表取締役。
左から大谷 愛さん（臨床心理学部2年次生）、桐本 梨乃さん（こども教育学部2年次生）

文責：京都文教大学・短期大学 社会連携部 フィールドリサーチオフィス